

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 虹の森 (2ユニット合同)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296300011-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296300011-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常生活の中で、入居者様が安全・安心に過ごして頂ける様に心掛けている。ご家族とスタッフとのより良い関係が保たれる様努めている。たとえば、面会時に最近の様子をお知らせし、月一回生活の様子の手紙と写真を郵送している。入居者様が受け身だけでなく、達成感を感じてもらえるよう、出来る事を実践して頂いている。たとえば食事作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除等をスタッフと一緒に頑張って頂いている。また、排泄パターンを把握し、その方にあわせて出来る限り最小限にパッド等を使用している。地域との交流も多く、保育園児による慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習、地元等の皆さんによる慰問を受け入れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

お達者度が堂々静岡県1位に選ばれた長寿の町「森町」に事業所はあります。問い合わせは積極的に受入れ、「少しでも役に立てれば」と在宅介護の家族が困っている事案にも相談にのっていて、「家族との絆が強く、高齢者想い、が伝統の地域でカウンセラーの役割を担っています。また民生委員の集いで事業所案内をおこなったご縁から10名ほどの団体で見学に訪れてもらえたとの実績もあります。それらの姿勢は職員間の報連相や利用者へのケアサービスにも反映され、連絡ノートのレスポンスでは端的で充実したやりとりが見られ、また半数を占める男性職員にも羞恥心に配慮あるエスコートがみられ、感心しました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所と玄関前に掲示している。理念を書いた用紙をカードケースに入れて携帯している。	理念は当初唱和していましたが、現在は長年働く職員のOJTに代わっています。“丁寧な支援、を目標に「職員が楽しく仕事ができるのが一番の介護」と考える管理者の下、互いを想い合える職員に育っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事のチラシを、地域の方々に配っている。	近所から自家製の蜂蜜が届くこともあり、園児の演奏会&肩たたき、茶道や踊りのボランティアも来訪しています。虹の森祭りは恒例となり、80名ものお客様に法人役員の手による焼き物も振る舞われています。	自治会との関係進展となるよう、側溝掃除など地域の清掃や行事への裏方的な関わりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習の受け入れは、継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々に出席して頂き、実情介護サービス等を伝えている。質疑応答の時間を設け、和気あいあいの雰囲気でお茶をしながら話し合う時間も保たれている。	行政、地域からのほか、家族が3~4組と積極的に加わっています。運営報告が終わると制度や書類について役場から解説をもらえ、その後は皆でおやつ作りをおこない、小腹を満たしてから帰路につく家族もいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回、必要に応じて市町村担当者に実情等をお伝えし、運営推進会議にも出席して頂いている。	役場には月に数回出向き、入居・退去まで直接窓口で情報を運んだ甲斐があり、今では顔を覚えてもらえています。さらに事業所の様子について気にかけてもらえるまでになり、介護相談員も受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠、身体拘束もしていない。	教育研修はないものの「想いを無視したらそれこそが拘束」との視点をもっています。足元がふらつく転倒の心配には自由にしてもらうためにも居室にセンサーマットを敷き、帰宅願望には「ついていくね」と歩を進めますが、状況によっては施錠することもあります。	年1回程度は身体拘束をしないケアに係る研修会の出席及び報告会を通じての標準化を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会は設けていないが、報道等で話題になった時はスタッフ間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族がご理解、納得して頂けるよう時間をかけ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でも出された意見を話し合っている。アンケートの依頼を予定している。	1日2回訪れることもあるほど家族には足繁く通ってもらえています。「聞きたいことがあればいつでもできるから運営推進会議に出なくていい」と言う家族もいるとのエピソードからは、日頃の関係の良さが覗えます。	家族からは「歩かせてほしい」との要望があり、法人本部からは「野菜や花を育てましょう」と示唆されていますので、二つが一つに融合した企画として進むことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等意見が出た時は随時行っている。	新聞紙面などを題材に身近に起こりうる事例として話し合うことで共通理解が進み、また自省する機会となっています。「何かあったらどう動くか？」とアイデアを出し合って結論に至ることが風土として定着しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議・施設会議等で把握に努めている。必要に応じて面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に参加している。外部研修、新人研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、講演等にも参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望などを、スタッフ全体で共有して、実践できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに最近の様子などをお伝えして、何か要望はないか傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様が一番何が欲しいのか…まずそこを優先してサービスを提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に散歩したり、話をしたり、共にレクリエーションをしながら、家族のような関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会にいらしたら一緒にレクリエーションにお誘いするなど、共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様との面会や外出はもちろんのこと、ドライブなどに行き、馴染みの所へ行くようにするなどの支援を行っている。	信心深い人にはドライブで小國神社へ、職員相手に将棋を指したり、馴染みの美容院へ通い、大好きなサイダーは居室冷蔵庫に冷えています。絵手紙を書く仕事をしていた人は全員の顔を描いてくれ、「そっくり」でした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日にレクリエーションの時間を何回か作って、なるべく多くの方々が参加出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	偶然出会った時に挨拶する程度になっているが、近況を話されるケースもある。気軽に来設される様お伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく話などを多くして、そこから希望・要望などを聴き、実践出来るよう努めている。	利用者一人ひとりに「〇〇さん、今日はよろしくお願いします」との挨拶で仕事が始まるのが日課で、話す回数と伴に気づきも増えています。職員は聴くことの大切さを実感し、達成感が仕事によりよく連鎖しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーから情報を聴いて、更にご本人の様子も見ながら、適切なサービスが提供出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に情報を把握して、それに合った流れのサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、ミーティングノート(課題ノート)を活用してスタッフと話し合い、介護計画を作成している。	連絡ノートに「〇〇さんのことで相談したい」と記入があると、担当者を中心に検討会が始まります。変更があった場合と3ヶ月に1度の定期とで書き換えています。カンファレンスは毎月敢行しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時に職員同士で情報共有して、計画の見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況によりサービスを一部変更するなど、常に柔軟な対応ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに住んでおられるご友人やボランティアの方々を受け入れ、利用者様がこの地域で暮らしていることを実感できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に当たっては、ご本人、ご家族の意向を優先しながら、施設側もアドバイスをさせて頂き、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医はおらず大半がかかりつけ医で、家族に受診の付き添いをお願いしています。救急搬送先である森町病院は在宅連携ネットワーク(医療連携システム)が敷かれ、情報共有でき助かっています。	「受診帰り家族と立ち話をすることもあり、また必要に応じて同行させてもらっている」とのことですが、書面によるやりとりはなくてもよいのかを改めて話し合うことを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護職はいないが、介護職が看護の眼を持って、日常の変化に気付けるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状等の様子や経緯を細かく医療機関に報告している。退院時には退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の対応が適切に行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設内での看取りが出来る事を、希望されるご家族様にお伝えしている。在宅医療連携ネットワークシステムを活用し、医療機関の情報がすぐに伝わる仕組みを構築し、急変時の対応に努めている。	契約の段階では終末期に触れずに「此处では医療行為はできない」事を伝えています。「看取りをおこなう」姿勢でいますが、往診や家族の協力、職員体制などが揃ってはじめておこなえると考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを準備している。職員は救命救急講習に順番に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月と9月の一年に2回防災訓練を実施している。(夜間想定も実施)	夜間想定やスモークマシンでの煙体験と新たな試みも加え、年に2回総合訓練を実施しています。職員の大抵が町内在住ということは強みですが、「地域の防災訓練に誘われたが、遠くていけなかった」ことは残念です。	地域の訓練は、利用者を伴うことが難しくともまずは職員のみで参加し「事業所を知ってもらう」ことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して、目線を合わせた言葉掛けをすることを心がけて対応している。	「職員の考えを押し付けない」ことが遵守されるなか、「目線を合わせた言葉遣いを踏まえた振る舞いがある」と管理者は感じています。男性職員が半数を占めますが、羞恥心に配慮あるエスコートに感心しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う時は、本人の意見や意思を尊重して、無理強いはしない様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず本人の気持ちを確認し体調にも配慮して、レクなどは必ず声掛けをして参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が決めることができる方は本人に決めて頂いている。出来ない方は、体調や気候・季節に合わせて着る服を選んで、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、食器を拭いたりして頂いている。塩分制限のある方の食事を作る際は、食事が物足りなく感じない様味付けに気を付けながら行っている。	メニューは食材を配達する業者が用意してくれますが、庭でのバイキングなど食事イベントもあります。女性利用者は積極的に手伝い、煮物や和え物に御礼の言葉を伝えると「やれることがあって楽しい」と嬉しそうです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が摂れていない利用者様に対しては、カロリーの高い食事の支援を行っている。水分量は利用者様の好みや習慣を把握し、飲み物を色々変えて提供することで不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の合計4回口腔ケアを行っている。ご本人にまず磨いて頂くが、状況に応じて職員が仕上げを手伝うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別に記入(排泄の有無、失禁の有無)し、一人一人のパターンを把握し、声掛け又はトイレ誘導を行っている。	便秘には水分調節や運動で補い投薬量を増やさない状態をつくりたいと考えています。行為が気持ちよく、また自立が続くようにと水分を摂る時間やパターンを確認し、排泄チェックシートを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の食事量、水分量をチェックしている。便秘気味の方には朝ヨーグルトを、便秘がひどい方は午前中に漢方のお茶を飲用している。処方薬を頂いている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日は入浴されており、要望があればその他の日でも入っていただいている。要望に応じて、足浴・シャワー浴も行っている。	ユニットバスで冷暖房完備です。3日に1度をめやすに入浴をしてもらい、一人ずつ湯を入れ替え、好みの入浴剤でゆったり過ごしてもらっています。拒否があった場合は明日にと替えたり、清拭をおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事と入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も利用者様の意志で過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と、現在飲んでいる薬を一覧表にしており、利用者様の状況に合わせて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後1時間程、みんなでゲームを行ったり、散歩に行ったりしている。興味のない方には、個別で興味のある事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には毎日散歩を行っている。(真夏及び真冬は除く)他には計画を立て、ドライブや買い物に出かけている。	昼前に全員で30分前後の散歩が日課で、ちょうど半分ほど行ったところで休憩して戻ってくるのが恒例となっています。月2回程度のドライブ外出では、春は桜、秋にはコスモスを堪能し、袋井の愛野公園へはおにぎり持参で出かけることもあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が立て替え、後日ご家族へ請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。月1回ご家族への近況報告として、職員が手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒は毎日行っており、室温もその日の気候に合わせて対応している。フロアの大きい壁に、壁画を作って貼っている。	オセロゲームやカラオケ、テレビ・ラジオと、折々の楽しみのあるリビングにはソファが窓に向けられ、遠くまで続く田園風景を一望できます。月1回本部から折り紙を教えにきてもらえ、四季の花の折り紙作品が印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意し、座位が難しい方用にリクライニングチェアを用意し、くつろげる空間を提供している。テレビも見やすい位置に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使ってもらっている。思い出の写真やレクリエーションの時に作った物や作品を飾り、いつでも見られるようにしている。	テレビの持ち込みもみられ、食後には個々のベッドで横になる利用者の姿がありました。常飲のサイダーを美味しくするための冷蔵庫、大正琴や籐椅子、生花や絵手紙と趣が感じられる居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下等手すりがついている。トイレの場所がわかるように、トイレの前に大きな張り紙をしている。		